

第6回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会

「困難の折り重なりに生きる人々に支援は届いているか?! (人の尊厳に根ざす)生活困窮者自立支援の価値(意義・意味)を問う」

通信 **3**

1 日目
報告

提言1 自殺対策 NPO法人 自殺対策支援センターライフリンク 代表 清水 康之さん



自殺者の多くが、複数の問題の連鎖で追い込まれた末に亡くなっています。目指すのは、「自殺の危機経路」にはまり込んだ誰もが生きる道を選ぶために必要な支援を受けられること。自殺対策基本法以降、「地域における包括的な支援」を各地域で展開できる社会の仕組みづくりが進められています。ただ、包括的支援が乱立して縦割りが生じないように、関係機関・分野が連携していく必要があります。

自殺の現状、対策の枠組みを踏まえ、①地域自殺対策計画との連携（地域福祉計画との連携。事業の棚卸しを活用した地域の生きる支援策の総動員）、②連携支援のための相談票「つなぐシート」を使った連携、③「自殺対策SNS相談」との連携の3つを提案します。自殺対策と生活困窮者自立支援事業の連動を高めて、包括的支援を実現する一歩を踏み出したい。

提言2 共生のまち創り 社会福祉法人ゆうゆう 理事長 大原 裕介さん

社会福祉法人ゆうゆうでは、北海道当別町を拠点に、障がい者や高齢者の生活支援、子育て支援などに取り組んでいます。活動の原点である、2002年に始めた学生による障害児・者の一時預かりサービスの取り組みから、障がい、高齢、子育て、生活困窮などさまざまな困難を抱えた人たちの「存在の見える化」の必要性を感じてい

ます。それが住民ボランティアの確保だけでなく、当事者の尊厳回復にもつながります。小中高校生に支援のあり方などを考えてもらう「学びの場づくり」も実施。子どもたちに共生のまち創りが価値ある仕事だと知ってもらいたい。それが将来、介護・福祉の人材不足解消につながります。



提言3 女性による女性支援 NPO法人 BONDプロジェクト 代表 橘 ジュンさん



深夜にまちにいる10~20歳代の女の子に声をかけ、本人が望めば話を聞き、関係性をつくって支援につなげています。暴力や家族関係などを理由に自ら家を出た彼女たちは、困っていても自分で解決しなければと思い、犯罪などに巻き込まれてしまう。弁護士、児童相談所、女性相談センター、生活困窮者自立支援相談窓口などと連

携し、支援にあたっています。家には帰れないけれど学校には行ける。フルタイムでは働けないけれどアルバイトならできる。公的機関につながらない彼女たちの現実に、既存の制度、シェルターが沿っていません。それを応援できる制度があるといいなと思っています。

提言4 刑余者支援 長崎県地域生活定着支援センター 所長 伊豆丸 剛史さん

全国に先駆けて2009年1月に開設し、罪を繰り返す障がい者や高齢者740人と向き合い、立ち直りを支援してきました。被告人の段階からかかわり、司法と福祉、行政と社会の狭間に陥った社会的弱者を支えるため、法定化された自立支援協議会の中に専門部会（相談支援事業所）をつくって話し合い、また、県下では地方再犯防止

推進モデル事業をすすめ、全国で活用できる官民協働のスキームをつくりました。学生との接点づくりにも力を注いでいます。長崎多職種連携「たまごの会」に代表されるように、就職前の医療・保健・福祉の学生同士が交流を重ね、触法者への理解を深めることで、分野を越えて連携できるイノベーションの種を感じています。



参加者の
声



沖縄県糸満市くらしのサポートセンターきづき
上原 なおみさん 第4分科会に参加予定
2015年度から少しずつ取り組んでましたが、自分たちの力だけでは限界があります。地域で包括的な支援に取り組むために、関連機関や地域住民などの周りの力をいかに巻き込んでいけばいいか、分科会に参加して自分たちの実践に活かしたいです。



高槻市役所(大阪府)
村上 敦将さん 第7分科会に参加予定
行政として、今後積極的に若者の居場所づくりに取り組んでいきたいと思っています。どのようなことを中心に進めていけばいいか、全国の先進的な取り組みから持ち帰ることができればと思っています。



阪南市役所福祉部生活支援課(大阪府)
栗山 桂子さん 第9分科会に参加予定
任意事業ではありますが、家計改善支援事業は自立支援において非常に重要だと感じています。

行政がどのように家計改善支援業務に取り組んでいけばいいか、グリーンコープ生活共同連合会の行岡みち子さんのお話などを特に参考にしたいです。

同志社大学社会学部社会福祉学科
高坂 遥菜さん 第7分科会に参加予定

大学で社会福祉士の資格取得のための実習を終えて、若者の引きこもり支援やアウトリーチなどに興味を持ちました。若者への支援を行っているさまざまな団体の話を聞いて、より一層学びを深めていきたいと思っています。



東浦町社会福祉協議会(愛知県)
和田 京子さん 第10分科会に参加予定

現在、制度のはざまの方に向けた支援を行っています。対処療法的な支援ではなく、地域力を上げていきたいと思っています。孤立者と地域をつなげたり、地域の中での偏見を取り払うために何をすればいいか、勉強したいと思っています。



NPO法人自殺対策支援センターライフリンク
田中 美帆さん 第7分科会に参加予定



全国的な動き、これからのビジョンについて明確なものが見えてきたらと思ひ、参加しました。ここで得たものを職場やかかわっている方々に反映できたらと思ひます。

認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ
苫米池 岳子さん 第1分科会に参加予定

全国で同じ支援にかかわっている方々と情報共有ができることを楽しみに茨城から参加しました。今日は参考になるような話が聞けたらと思っています。



シンポジウム

「生活困窮者自立支援制度で誰かに支援は届いているか」



生活困窮者自立支援制度の現状と
今後の展望

令和元年11月3日
厚生労働省社会・援護局地域福祉課
生活困窮者自立支援室 地域共生社会推進室
室長 吉田 昌司



NPO 法人自殺対策支援センターライフリンク
代表 清水康之さん

提言1～4を受けて、シンポジウムではそれぞれの実践から議論を深め合いました。
厚生労働省の吉田昌司さんは、現場の実践を生かしながら制度化したことを説明。実践を広げていくこと、断らない、狭間のない支援を、困窮者支援だけでなく福祉全体に広げていく必要性が求められていると言及しました。

自殺対策支援センターライフリンクの清水康之さんは、自殺対策として、①自殺対策の枠組みづくりと、先進的な自治体のモデル化と未着手の自治体の底上げ、②子どもの自殺の増加で、SOSの出し方の教育や自分の存在意義、モチベーションを生産性と幸福度につなげるという考え方の議論、③支援者支援を挙げました。



社会福祉法人ゆうゆう 理事長
大原裕介さん

長崎県地域生活定着支援センターの伊豆丸剛史さんは、自身の経験から「支援者が鮮やかな支援をするのではなく、社会のなかでつながっている時間を積み重ねることが再犯を減らす」と発言。また、「支援者側の価値観で判断をすると狭い支援に」「地域に大人110番が増えるといい」と話しました。

社会福祉法人ゆうゆうの大原裕介さんは、本人と家族と支援者だけがつながり、サービスが展開されることに警鐘を鳴らし、地域全体で共生社会をつくるうえで、「お互いさまが育める生活支援をデザインしたい」と発言。そのためには、「自分のやっている何気ない営みが社会的に意義があることを、企業などと協力して社会に発信していくことも必要」と提案しました。



NPO 法人 BOND プロジェクト 代表
橋ジュンさん

BONDプロジェクトの橋ジュンさんは、「若い女性には、SNSを利用したアウトリーチもしている。どんな状況の子でも相談に乗っていただけるのなら、どこでも連れて行って、全国の人と一緒に支援をしていきたい。裏の世界、闇の世界ではなく、彼女たちが選んだ世界を応援していきたい」と発言しました。

生活困窮者自立支援全国ネットワークの奥田知志さんは、課題解決型の支援とつながりが支援の両輪と中間報告に書かれたことに触れ、「ホームレス支援法から17年が経ち、ホームレスの人数が減ったことで評価をされているが、台風の被害に遭い、避難所に来たホームレスの人を嵐のなかに押し返した自治体があった。共生社会という大元をしっかりとつくる必要がある」と話しました。



長崎県地域生活定着支援センター 所長
伊豆丸剛史さん

生活困窮者自立支援全国ネットワークの宮本太郎さんは、「4者は音程も音色も違ってはいたはずなのに、見事なハーモニーを奏でていた。明るい話ばかりではないが、光を感じた」と締めくくりました。



厚生労働省社会・援護局 地域福祉課
生活困窮者自立支援室
地域共生社会推進室 室長 吉田昌司さん



NPO 法人抱樸 理事長 奥田知志さん



中央大学法学部 教授 宮本太郎さん

参加者の
声

児童養護施設 (山形県)
大場 綾さん

自分が身近に感じるものから新鮮なものまで、幅広いテーマがあり勉強になりました。特に提言2の大原裕介さんの「福祉っぽくないもの一さまざま分野にまたがり収益も考慮した明確なビジョンを持った実践」は、今後もっと重要になっていくのではないかと思います、刺激になりました。



大里総合管理(株) (千葉県)
野老 憲一さん

広く、そして深い議論が続き、消化不良になりそうなほどに充実した大会でした。提言などを聞いて、今まで名前は知ってはいたけれど、具体的にはよくわからずにいた対象者のことや支援方法が少しわかった気がします。この大会を入り口に、自学自習していきたいと思いました。



青葉城址の伊達政宗騎馬像 (仙台市)